

佳作

私の宝物

新潟県上越市立直江津東中学校

3年 間島 莉亜

私は中学校から吹奏楽を始めました。入部時、私の第一希望はもちろん、小学校から行っていた「トランペット」です。しかし、私が担当になったのは、体験のとき全く音が出なかった「クラリネット」でした。初めは、名前しか知らない、音も全く出なかった楽器。正直、これからの3年間で不安でいっぱいになりました。ところが、この楽器が私をよい方向に連れて行ってくれたのです。

1年生最初のコンクール、この頃の私は練習にもあまり身が入らず全く上達していませんでした。1年生でコンクールに出場できるのは1人。私のパートは3人いたのでオーディションでした。結果、私は残念ながら落ちてしまいました。初めての大会会場では、上越市全ての吹奏楽部が集まって「今日最高の演奏をしよう」と伝わってきて、その空気に圧倒されてしまいました。初めての大会は自分が出場できずに終わってしまいました。終わった後、先輩を泣かせてしまったこと、そしてステージに上がらず、一緒に泣くことができない自分に悲しさと悔しさだけが残りました。初めての大会で、吹奏楽の厳しさを知りました。

2年生の夏がやってきました。この頃の私は去年の自分とは気持ちとやる気がガラッと変わっていました。2年生になり自分もステージに上がれる喜びを抱き、毎日必死になって練習をしていました。そしてこの頃、私の心に芽生えたのが、「部長になりたい」という気持ちでした。私の先輩はいつも明るくてみんなを励ましてくれる、正に太陽な先輩でした。そんな先輩からたくさんエネルギーをもらっていたので私もそんな存在になりたいと思うようになりました。

大会に出場するにあたって「できない」をなくするのがとても大変でした。本番に出る以上、一つでもミスをしたり間違えたりすると私たちがどれだけ頑張ってきていても、それは他の学校も同じで、本番の演奏で結果は決まっています。いよいよ私の初舞台の日がやって来ました。前髪を上げてピカピカの靴を履いて、いざ、憧れのステージでの演奏へ。自分たちの「全力を出し切った」そんな演奏をしましたが、結果は去年と一緒でした。表彰式が終わった後、私は人生で初めてあんなに悔し涙を流しました。大好きな先輩ともう一緒に吹けないこと、大会に出ていない後輩を泣かせてしまったこと、あの日のあの気

持ちは一生忘れないと思います。

最後の年、私は部長になることができました。しかし、私はここでも不安になってしまいました。それは今までとは違う規模の人数の大会に出ることでした。しかし、そんな不安はすぐにはなくなりました。それは同じ目標をもってくれる仲間、それを支えてくれる先生方がいたからです。本当に心強かったです。毎日たくさんたくさん練習をして、いざ私たちの夏が始まったのです。

大会本番は新入生も加わり、私たち最大の人数で出場しました。みんなで心一つにして「パーン」と響きのある音を響かせた後も、心一つに最高の演奏をすることができました。全ての学校の演奏が終わり不安でいっぱい表彰式が始まりました。たくさん学校の名前が発表され、いよいよ上位大会に出場できる学校の名前が呼ばれ始めました。私は、私たちの学校の名前が呼ばれたときのステージ場から見た観客席の仲間の顔が今でも忘れられません。この結果は部員全員が本気で音楽に取り組んでくれたからです。そして次の大会、私たちのサウンドをホールに響かせましたが、結果を出せず私たちの夏はここで終わりました。

私はこの3年間をこの部活で過ごせて本当に幸せでした。私の夢をみんなが担ってくれたからここまで来ることができました。特に3年間一緒にやってきた同級生には感謝しきれません。私のエネルギーは私についてきてくれた部活の仲間です。どれだけつらくても周りからのエネルギーでここまで頑張ることができました。この熱い3年間は一生忘れられない宝物です。これからも私のエネルギーは私の最高の仲間です。